

平成29年度北部管内

地域連携担当者研修会

平成29年6月8日(木)に大崎合同庁舎において、今年度初めて地域連携担当者研修会を開催しました。

100名を超える参加の下、今年度から始まった「地域連携担当者」の位置付けや必要性などの事業説明を行いました。研修としては、前半に事例発表を栗原市立金成小中学校 教諭 鈴木 哲 氏より「おらほの協働教育」と題して発表いただきました。後半は、5、6名のグループに分かれて、各学校や地域での取組や課題等について情報交換や意見交流がなされました。管内の小中学校の地域連携担当の先生方のほとんどが参加し、今後の教育活動に役立つ情報を得る機会となりました。

宮城県教育庁生涯学習課協働教育班 石塚靖明課長補佐(班長)より「地域と学校が連携・協働した『学校づくり』をめざして～地域と学校をつなぐ『地域連携担当』～」と題して事業説明がありました。

【地域と学校の連携・協働体制の整備に向けた国・県の方向性】

- 「地域とともにある学校」への転換
- 「子供も大人も学び合い育ち合う教育体制」の構築
- 「学校を核とした地域づくり」の推進

【第2期宮城県教育振興基本計画】

- 「地域学校協働活動」の推進
 - 「地域学校協働本部」の組織化
- ※話合いや共通理解の場、
目標の共有化が大切！



事例発表「おらほの協働教育」 栗原市立金成小中学校 教諭 鈴木 哲 氏



平成26年4月、旧金成町内の5つの小学校と1つの中学校が再編し「金成小中一貫教育校」が誕生しました。小中合同の学校行事が計画され、先生方の協働体制が築かれました。平成27年からは、栗原市協働教育推進事業「学校支援ボランティア事業」の推進指定校となり、「あせらず・おごらず・一歩ずつ」を合い言葉として協働教育を進め、よりよい教育活動の創出に努める体制が形作られました。地域との連携の在り方や学校に合った仕組みづくりなど、一つ一つの課題を解決しながら、地域の様々な教育力を生かし充実した学習活動が展開されたことで、子供たちの学びにも効果が出ました。担当者としてのご苦労や取組の姿から、参加者は、多くのことを学ぶことができました。

情報交換(グループワーク)

地域や立場の違う参加者同士が小グループになり、それぞれの立場での取組や課題として考えていることなどを語り合い情報交換ができました。初めて知ることや共感できる内容が多々あり、ネットワークづくりにもつながる有意義な時間になりました。

【参加者の感想から】

- ・「地域連携担当」の役割を具体的に示していただきました。関係諸機関との連携が大切だと思いました。
- ・学校独自で地域支援ボランティアを手配するのは、なかなか難しいと感じていました。地域学校協働本部が確立されれば、格段に効率化が図られ、より有効な協働教育が実現すると感じました。学校現場にとっては、この上ない朗報です。
- ・地域連携担当の必要性について理解できた。校内で地域との連携を図りながら行う学校や学年の協働教育の視点で見直す必要を感じた。
- ・地域連携担当の仕事のイメージがつかめたので良かったです。今までのことを続けながら、新しく地域の力を生かせる活動を増やしていきたいと思います。
- ・地域連携担当者としての役割を理解することができました。何より活動の目標をしっかりと立て、共有し、推進(実施)していくことの大切さを学ぶことができました。スムーズに様々な活動が実施できるように努めていきたいです。

